

2023年5月28日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第66巻第8号(通算3340号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう 週報

教会標語

神様がすべての人と共に
おられることを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

ペンテコステ(聖霊降臨日)礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前奏 黙祷

招きの詞 ヨハネによる福音書 7章 37-38節

賛美歌 21-210番「来る朝ごとに」(©著作権消滅)

聖書 使徒言行録 2章 1-13節

お祈り(交唱)(2頁をご参照ください) みんな

賛美歌 21-346番「来たれ聖霊よ」(©JASRAC)

メッセージ「ビューン ピトッ ワイワイ ザワザワ」 岡嶋千宙 伝道師

賛美歌 21-565番「働く人々」(©日本基督教団出版局)

聖餐 ユーカリスト 牛田 匡 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ

賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

主の祈り

献げ物(*)

誕生者祝福式(**)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

祝福 岡嶋千宙 伝道師

後奏 アーメン コーラス(21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

報告(4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

**みんなで今年度5月までにお生まれの方をお祝いいたします。

ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

招きの詞 ^{まね} ^{ことば} ヨハネによる福音書 7 章 37-38 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

^{37a} ^{かわ} 渴いている人は誰でも、私のもとに来て飲みなさい。³⁸ 私を信じる者は、聖書が語ったとおり、その人の ^b 内から生ける水が川となって流れ出るようになる。

(脚注 a: 直訳「誰かが渴いているなら」、b: 直訳「腹から」)

ペンテコステのリタニー (交唱) (出典:『祈りのコンチェルト』2006 年 46-47 頁)

司式者 ^{ししきしゃ} ^{かみ} 神さま、ペンテコステの ^ひ 日のように、
みんな ^{せいいい} ^{かぜ} 聖霊を風のように送り、^{おく} ^{きょうかい} ^{ちから} 教会を力づけてください。

司式者 ^{ししきしゃ} ^{かみ} 神さま、初めの教会が誕生した日のように、
みんな ^{せいいい} ^{ほのお} 聖霊を炎のように送り、^{おく} ^{ちから} わたしたちを力づけてください。

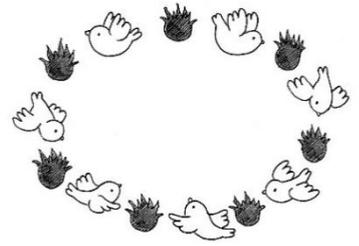
司式者 ^{ししきしゃ} ^{せんそう} ^{つづ} ^{にく} ^あ 戦争を続け、憎しみ合うこの世界に、
みんな ^{せいいい} ^{たす} ^{ぬし} 聖霊を助け主として送ってください。

司式者 ^{ししきしゃ} ^{いの} どう祈ればよいのか分からないとき、
みんな ^{せいいい} ^{たす} ^{ぬし} 聖霊を助け主として送ってください。

司式者 ^{ししきしゃ} ^{せいいい} ^{はたら} 聖霊が働くと、^{なに} ^{うご} ^か 何かが動き、変わっていきます。

みんな ^{せいいい} ^{はたら} 聖霊が働くと、^{かがや} ちがっていることのすばらしさが輝きます。

一緒に ^{いっしょ} ^{かみ} 神さまのくださる聖霊を感謝します。



聖書 使徒言行録 2 章 1-13 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まっていると、²突然、激しい風が吹いて来るような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。³そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。⁴すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話した。

⁵さて、エルサレムには天下のあらゆる国出身の信仰のあついで ^{こきょう} 人々が住んでいたが、⁶この物音に大勢の人が集まって来た。そして、誰もが、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられた。⁷人々は驚き怪しんで言った。「見ろ、話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。⁸どうして、それぞれが生まれ故郷の言葉を聞くのだろうか。⁹私たちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者があり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、¹⁰フリギア、パンフィリア、エジプト、リビアのキレネ側の地方に住む者もいる。また、滞在中のローマ人、¹¹ユダヤ人や改宗者、クレタ人やアラビア人もいるのに、彼らが私たちの言葉で神の偉大な ^{わざ} 業を語っているのを聞こうとは。」¹²人々は皆驚き、戸惑い、「一体、これはどういうことなのか」と互いに言った。¹³しかし、「あの人たちは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、嘲る者もいた。(脚注 c: 異本による。底本では「ユダヤ人」)

《先週のメッセージより》5月21日 復活節第7主日礼拝

「神、共にあり。今も、かつて、いつまでも」より 牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 28章 16-20節

今回の聖書のお話は、「マタイによる福音書」の最後に書かれているお話でした。十字架での死から復活させられたイエス様が弟子たちと、故郷のガリラヤで約束通りに再会されたお話です。そしてイエス様が弟子たちに告げられたのは、「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(20)という言葉でした。日本語の「かみ」という言葉の語源は、「隠り身(かくりみ)」(『古事記』)だとすると、目には見えないけれども存在しているものという意味合いが強いかと思います。しかし、聖書が伝える命の神は、イエス・キリストという目に見える姿で、この地上を生き、歩まれ、そして死から復活させられて、今も全ての人と共に生きておられます。それは言い換えれば、私たち一人一人が普段から関わっている多くの人々の中に、それらの人々の生き様を通して、私たち一人一人に関わってくださっているということではないかと思います。

昨年2月から続いている、ロシアとウクライナの戦争を受けて、いよいよ核兵器が使用される危険性が高まっているという理由で、19日から21日までの3日間、広島でG7(主要7カ国首脳会議)が開催されています。核兵器にしても、原子力発電にしても、地球環境破壊問題にしても、公害問題にしてもそうですが、全ての命を「極めて良いもの」(創世記1:31)として創られた命の神の御心みこころに反して、この地球の全ての命を何度も破壊し得る暴力が、現代のこの世界を席卷せっけんしています。しかし、そのような中であっても、何ものも私たちが神の愛から引き離すことはできません(ローマ8:38-39)。だからこそ、神様がいつも共にいてくださることに信頼して、歩みを進めて行きたいと願います。八方ふさがりで、どうしようもないとしか思えないような時であっても、事実から目を背け事実を隠蔽して、自分に嘘をつくのではなく、事実^{じじつ}に目を向けて、それでもやってみよう^{やってみよう}と模索する人の友になりたい。やってみても出来ないかもしれないけれども、出来る所まででもやってみたいという人の隣に立って、共に挑戦したい。そこに、死では終わらない復活のイエス様、神と人と共に生きる生き方があるのだと思います。神、共にいます。今も、かつて、いつまでも。いつも一緒におられる神様に励まされ、導かれながら、私たちは今日もここから「正義と平和と喜び(=神の国)」(ローマ14:17)を造り出す道へと歩みを進めていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



